

3 音楽を愛好する心情を育てます

見やすい資料とメッセージ

巻頭には、これから演奏する楽器や、比較鑑賞をする楽器などを
見開きいっぱいに示しました。
口絵には、箏と篠笛の家元からの
メッセージを掲載、
「感謝と謙虚の心をいつまでも忘れない」
「他の人の音に耳を傾ける」といった
学びの、その先へ通じる、
読みごたえのある内容です。

各打楽器について
さらに詳しい
解説ページに
つながります。



口絵②

With My Heart 心をこめて 中学生のみなさんへ
音楽はメッセージ



楽器のお稽古では技術を磨くことはもちろんですが、私は「礼に始まって礼に終わる」といった礼儀についても、気がついたことは言うようにしています。例えば先生や仲間に対してきちんと挨拶ができるということは、あたりまえですが大事なことです。服装についても「自分が着たいから」ではなく、相手がどう思うかを考えて、その場に合ったものを選ぶなくてはなりません。

「実はほど頭の下がる稲穂かな」という故事があります。稲は実が熟すにつれて穂が垂れ下がることから「人は学問や品性が深まるにつれて、かえって謙虚になる」ということを表しています。演奏家は自分一人で上手になったわけではありません。先生の指導もそうですが、家族の協力とか、いろいろなことがあって今があるのです。感謝と謙虚の心をいつまでも忘れないようにしたいですね。

箏 (こと) 深海さとみ



楽器を自分の思うように演奏することは、決してやさしいことではありません。例えば篠笛の場合、周りの人と同じように吹いているつもりでも、自分だけ音が出ない、そんなことがよくあります。楽器に慣れるためには、ある程度時間がかかります。人の声や考え方が普通うように、笛の音色(おんしやく)も一人一人異なります。同じ人でも、そのときによって音色が変わります。また、音には、いろいろな思いをこめることができます。一つ一つの音を丁寧に吹いて、よく味わってみてください。そして、他の人の音に耳を傾けることも忘れないようにしましょう。笛は「うた」です。気持ちのまま表れます。あせらずじっくりつき合っていけば、あなたを励ましてくれたり、助けてくれたりする…そんな親友のような存在になってくれると思います。

篠笛 福原 徹

口絵①

さまざまな音色(おんしやく)や響きと奏法

…は関連ページを示しています。

箏(こと) p.36- 榎川直幸

篠笛 p.18- 篠笛(右) 福原 徹、緒太鼓(左) 福原 百之助

リコーダー p.4- 8種類のリコーダーによる合奏団 東京ブロックフレイチ・アンサンブル；(左から)クラリネット・ソプラノ、ソプラノ、ソプラノ、アルト、テノール、バス、グレートバス、コントラバス

打楽器 p.98 ボンゴ(右) 小田もゆる、コンガ(中央) 伊波 真、ティンパレス(左) 和田 崇

世界にはいろいろな楽器があり、楽器の音色や響きを生かした音楽文化があります。基本的な演奏の仕方を身につけ、表現を工夫してみよう！

吹奏楽の仲間たち p.27 パーンズリー(インドの横笛 左)とタブラー・パーヤーン(インドの太鼓 右)の演奏

三味線 p.44- 三味線(右) 松永 忍、三味(左) 仲庭 佑希

お囃子 p.51, p.92 大鼓(左) 望月太志、小鼓(右) 望月美加子

「ブランデンブルク協奏曲 第4番」 p.17 エイジ・オブ・インライトメント管弦楽団

弦楽の仲間たち p.53 アバランチ・ダリシマーの演奏

打楽器

小太鼓(スネアドラム) 小太鼓はヘッド(鼓面)の中央付近を打つとしっかりとした明確な音が出ます。



大太鼓(バスドラム) 大太鼓は前へ出した右足に重心を寄せ、ヘッドの中央付近を打ちます。



ボンゴ ボンゴとコンガは小さいほうが左、大きいほうが右になるようにかまえます。



コンガ カホンはスペイン語で「木の箱」を意味します。楽器にまたがって打面やフチの部分を手で打ちます*。



カホン カホンの裏側



リコーダー運指表 ●…閉じる ○…開ける ◊…サミング(裏穴をほんの少し開ける) I、II…カエ指 B…バロック式(イギリス式) G…ゲーマン式(ドイツ式)

ソプラノは実音より1オクターブ低く、テノールは実音で記述する。

	ソプラノ	テノール	アルト	バス
小指	7	7	7	7
薬指	6	6	6	6
中指	5	5	5	5
人差し指	4	4	4	4
薬指	3	3	3	3
中指	2	2	2	2
人差し指	1	1	1	1
親指	0	0	0	0

リコーダーの変遷

ルネサンスのリコーダー アルト、ソプラノ

ルネサンス時代の16世紀頃から使われていたリコーダーは、ジョイント(※p.4)がなく、全体が一本につながっていました。

バロックのリコーダー アルト、ソプラノ

ジョイントのあるリコーダーは、バロック時代の17世紀後半から使われるようになりました。ジョイントによりピッチの調整が可能になりました(※p.5)。

ソプラノ **アルト** **テノール** **バス**

資料(巻末)は折込を利用した3ページ構成で、リコーダーの運指表とギター&キーボードコード表を大きく見やすく表した他、
五つの打楽器(小太鼓、大太鼓、ボンゴ、コンガ、カホン)を図説しました。
学ぶ楽しさは巻末からも広がります。